

認知症への理解を深め 安心して暮らせるまちへ

1月24日、直方東小学校で「認知症サポーター養成講座」が開催されました。認知症サポーターとは、認知症への正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の人や家族を見守る応援者のことです。市内では、約6600人が認知症サポーターとして活躍しています。今回は東校区民生委員児童委員協議会主催で、キャラバン・メイト（養成講座の講師役）の大田英治さん（70）と山本伸枝さん（69）が、民生委員と協力して実施しました。同校での開催は今年で5回目となり、6年生約70人が参加。山本さんは「家族が認知症になったときの接し方を分かってもらいたい」と語りました。

講座では、認知症の原因や症状を学んだ後、祖母が認知症になったという設定で、民生委員が祖母とその家族役になったの朗読劇が行われました。朗読劇では祖母が「ご飯を食べたのを忘れていた」「迷子になる」等、認知症の症状を分かりやすく伝え、どう関わればいいのかを教えました。

最後に認知症サポーターの証であるオレンジリングが贈呈され、約70人の認知症サポーターが誕生しました。



認知症への正しい理解を養いました

災害に負けないまちを目指して 九州防災・減災シンポジウムin遠賀川

1月24日、ユメニティのおがたで「九州防災・減災シンポジウムin遠賀川」が開かれました。平成30年7月豪雨で遠賀川が観測史上最高水位を記録したことなどを踏まえ、インフラの重要性や地域防災力の向上等をテーマとした、国土交通省九州地方整備局主催のシンポジウムです。

第1部の基調講演では、京都大学防災研究所の中北英一教授が全国各地で起きている豪雨災害の状況や集中豪雨が起る仕組み、人的被害の状況、今後の温暖化についてなどを、映像を交えて紹介。温暖化による気象変動の傾向を把握して、対応策を取るための重要性を強調しました。第2部では『頻発する豪雨災害への備え』というテーマでパネルディスカッションを実施。大学教授や専門家、市民、遠賀川河川事務所長、壬生市長らがパネリストとして登壇。「内水被害」「外水被害」の違いや昨年7月豪雨の市の対応、平成15年7月19日に起きた豪雨災害の状況など振り返りながら、今後の防災に向け、活発に意見を交わしました。



地域防災力の向上が今後の課題

直方市手話啓発事業 「ブンナよ、木からおりてこい」

2月2日、ユメニティのおがたで、手話パフォーマンス『ブンナよ、木からおりてこい』公演会を行いました。直方市手話言語条例の制定から2年が経ち、手話に対する理解を深めてもらおうと、市が主催したものです。1部では、大和青藍高校の手話コーラス同好会が「世界がひとつになるまで」を披露。2曲目の『小さな世界』では、市職員も来場者も巻き込んで楽しく歌いました。2部では、演劇好きな聴覚障がい者と手話の会メンバーで結成された「福岡ろう劇団博多」による手話劇『ブンナよ、木からおりてこい』が上演されました。

両親を失ったトノサマガエルのブンナは、高い木の頂上から安住の地を探そうとしますが、その木の上は天敵トンビのえさ場。トンビのえさになる小動物たちとブンナの運命を描いた作品です。手話が分からない人のために字幕が出たり、男女ユニット「GEEK・ID・AN☆AFFRICA」が楽器を演奏して音響を担当したり、あらゆる人が楽しめるように工夫されています。



恐怖をこらえて豆をぶつける園児たちに降参



孤独なトノサマガエルが命の大切さを学びます

ギラヴァンツ北九州コーチ陣の指導で スポーツの感動を体験しよう

2月11日、市体育館でトップアスリートによるサッカー教室を主催で開催。市内のサッカーチームを中心に5チーム約70人が参加しました。この教室は、一流選手・コーチの高い技術を子どもたちが目の当たりにすることで、スポーツへの関心を高めることを目的としています。

今回指導を担当したのは、ギラヴァンツ北九州の現役コーチである千疋美徳さん、鏑塚亮太郎さん、梶原夕希也さんです。子どもらは3人のコーチのもと3グループに分かれて、トラップやドリブル、パスの基本練習、ミニゲーム等を通じて熱心な技術指導を受けました。違うチームの生徒との合同練習は、子どもたちにとって、寒さも吹き飛ばすような熱い刺激となったようです。直方フアイヤーフCの白石大空さん（小5）は「これからのサッカーに生かせよう」と笑顔で話しました。また、FC直方U-12の利光玲央菜さん（小6）は「動き方が勉強になった」と。トップアスリートならではの指導方法に大満足の様子でした。



一流選手の指導によりメキメキ上達

直方市まとい会（田代英次会長）が 福岡県知事表彰を受賞しました

1月13日に行われた「平成31年直方市消防出初式」において、直方市まとい会が「防災思想の普及等」の功績により、福岡県知事表彰を受賞しました。なお、消防協力団体においては県内初の受賞となりました。

直方市まとい会は、直方市の消防を物心両面から支援し、地域社会の防災に寄与することを目的に、昭和37年に設立され今年で57年を迎えた、寄贈事業を主な活動とする直方市の消防協力団体です。これまでに直方市の消防に対して多くの寄贈事業を行っており、会員は会の趣旨に賛同する者で、主に事業所の代表者および有志で構成され、田代英次会長以下会員42人（1月現在）です。



問い合わせ：消防本部総務課総務係
(TEL 25・2301)